

大草谷津田いきものの里 自然観察会

静かな静かな（？）里山の秋

山岸文子(千葉市)

日 時：2010 年 11 月 21 日（日） 天候：晴れ

参加者：8 名（大人 5 名 子供 3 名）

担当指導員：岡田敬子、山岸文子

申し分のない好天に恵まれた。が、誰も来ない。やっぱり千葉ロッテマリーンズの優勝パレードには勝てなかったのか……。開始時刻を過ぎて駆け込んで来る 3 兄弟とお母さん。やれやれ。先日の駐車場下の法面に投げ捨てられていたアメリカオニアザミを見て貰った。凄まじいトゲ。手袋をはめた手でちょっと触れただけで指先に突き刺さる。「わぁー」と声が上がった。夏には外来カブトムシが置き去りにされた。外来生物が生態系を壊す事、繁殖力が強くてとても困る事を説明。改めて生き物を 持ち込まない 持ち出さない という約束を確認。併せて、観察路以外に立入らない事をお願いする。

今日のテーマは静かな静かな（？）里山の秋。『ひらひら』『がさがさ』『べたべた』を捜すことにする。見つけられるかな？

スタート地点でジョロウグモの巣。『べたべた』あったよ。小さな男の子が「落ち葉の道が『がさがさ』だよ。」

めじろんばの分岐点。スギの若木に落ち葉が乗っている様子が「クリスマスツリーみたいだね。」落ち葉には綺麗な色が多いがツタウルシの葉はかぶれるので素手で触らないでと話す。

ケチヂミザサが実をつけている。触って服にくっつけて『べたべた』を実感。フジカンゾウ、キンミズヒキの実も『べたべた』の仲間。

下畑の雑木林に入った。イヌシデ、コナラなどの葉が『ひらひら』落ちて来る。落ち葉キャッチ！！と追いかける参加者。秋が深まると空が広く見える。

階段を降りたところでナナフシを見つけた参加者。男の子が手に乗せて遊ぶ。大人はヤブコウジ、メギ、コバノガマズミなどの赤い実に興味を示す。オオモミジも綺麗に色付いている。羽根のついた実を飛ばしてみる。クルクルクル回り乍ら落ちていく。

エサキモンキツノカメムシ、コバネイナゴ、ホソミオツネトンボ、コカマキリ・・・田甫の周りでは虫たちも元気。黄色いチョウが『ひらひら』飛ぶのを見て落ち葉を『がさがさ』踏みしめながら広場へ帰った。

参加者の感想

- ・ 木や花に名札を付けて欲しい。
- ・ 虫が色々いるのにビックリした。
- ・ ナナフシがぼくの頭の上にまで登っちゃったんだよ。
- ・ 子ども達が楽しそうにするので私もリフレッシュできる。

静かな静かな里の秋——戦地の父親の無事の帰りを待つ歌だった。これからは戦争のない自然破壊のない世の中にしていかなければならない。参加者がおおきくうなずいた。

<担当者から>

やっと平仮名が読めるようになったお子さんが春から大草の観察会へ来るようになった。僅か 4～5 回の参加なのに生物相全体から見てこの生き物（例えばスズメバチ）がどんな位置にいて他の生き物とどう関わり合っているかを理解し始めているのに驚かされた。ひとえに先輩方の指導のたまものであるが、一指導員として尚一層精進しなければと痛感。